

## 安満遺跡公園 一次開園イベント開催

**高**槻市のセントラルパークとなる安満遺跡公園が一次開園を迎え、3月23日午前10時～午後4時（記念式典午前9時～）にオープニングイベントが開催される。当日は、大人から子どもまで楽しめる体験型、参加型のイベントが多数実施され、開園前から公園計画地で活動してきた「安満人倶楽部」の体験プログラムも楽しめる。目玉の一つは「みんなでテープカット」。記念式典で来賓と一緒にテープカットに参加でき（先着100名）、カットしたロゴ入りテープを持ち帰ることができる。安満遺跡の発掘調査で発見された弥生人の足あとをモチーフに、来場者1,000人の



安満遺跡公園パークセンターのイメージパース。

足あとで大きな壁に文字をつくる足あとアートも目玉の一つ。当日は、先着2,000名に景品、先着1,000名に花苗などのプレゼントも用意される。市の担当者は、「1日だけの特別なイベント。高槻市のシンボルとなる公園で思いっきり遊んで、思い出の1ページを作ってほしい」と話した。

※イベント当日は車で来場は不可。  
※イベント詳細は高槻市HPで確認を。

## 高槻城の障子堀 西日本最古級の発見

**発**掘調査が続いている高槻城二の丸跡から、西日本最古級とみられる「障子堀（しょうじぼり）」が見つかった。「築城の名手」といわれたキリシタン大名の高山右近が手がけたとみられ、戦国時代の城郭の発展過程を探る貴重な資料となる。

障子堀は幅約16m、深さ約4mの大規模なもので、底に大きさも深さも違う方形の穴が多数掘り込まれているのが特徴。底の穴に泥を溜めることで、攻め込んできた敵の足を止める防御機能を担い、不規則な形は、場所を推測されにくい落とし穴のような効果を狙ったと考えられている。

堀の上端部には石垣も見つかっており、



今回発掘された障子堀。

堀の中へ転落していた石の量から、少なくとも土塁の上に3段は積まれていたと推測される。「胴木（どうぎ）」と呼ばれる支えの木材を杭で留め、その上に石垣石を積む工法など、当時の城郭構築に導入されたばかりの先端技術が使われていることもわかった。

発掘の関係者は、「堀が常に使える状態で維持管理されていたとわかる事例で、戦国時代の緊張状態が伝わってくる。今後の城中核部分の解明にもつながる」と話した。

## 大阪府初 箕面市内のスーパーに投票所

**箕**面市と株式会社阪急オアシスは、「選挙などの投票所の設置に関する協定」を1月28日に締結した。この協定により、4月実施予定の大阪府議会議員選挙から阪急オアシス箕面店に投票所が設置されることになった。選挙当日の投票所が民間の店舗内に設置されるのは府内初。瀬川地区の投票区は、道幅の広い片側2車線の国道171号で南北に分断されており、南側に住む有権者は国道を横断して北側にある投票所に行く必要があった。そのため、市は平成29年から新たな投票所の設置を検討していたが南側には公共施設がなく、民間の施設も含めて検討を



投票所として提供する阪急オアシス箕面店のレストスペース。

続けた結果、今回の締結に至った。この新たな投票所の設置によって、約3,000人の有権者の移動負担が軽減される。スーパーマーケットでの買い物ついでに投票を行えることから、投票率の向上にもつながると期待が寄せられている。

## 乳幼児用液体ミルクを 災害用備蓄に

**箕**面市は、災害に備え、今年度から乳幼児用液体ミルクを備蓄する方針を固め、当初予算案を議会に提出した。国産の乳幼児用液体ミルク製造・販売が昨年解禁されたことを受けた動きで、西日本の自治体としては同市が初となる。

乳幼児用液体ミルクは、常温で6カ月から1年保存でき、そのまま飲ませることが可能。利便性の高さから海外では普及しているが、日本では乳児用の基準が「粉ミルク」しかなく、長らく国内での製造や販売が認められていなかった。東日本大震災と熊本地震の際、海外から救援物資として被災地に届けられたのを機に「液体ミルク」



に関心が高まり、昨年8月に食品衛生法が改正された。国内メーカーでは、今春に江崎グリコが初めて紙パック容器の乳幼児用液体ミルクを販売する予定。

市では公立保育所4カ所で常時600個の乳幼児用液体ミルクを備蓄し、災害時には速やかに避難所へ届ける計画。すでに備蓄している粉ミルク同様、普段から消費していくローリングストック方式を活用するため、無駄も発生しないという。

市の担当者は、「水や火を扱えないことが多い災害発生直後から使える。これで避難所での不安のひとつを取り除けたら」と話した。

## 振替輸送で乗車票不要に

**関**西の鉄道事業者18社局は、3月16日より列車の運転見合わせ時に実施する振替輸送の利用方法を変更すると発表した。これまでは、特定の乗換駅の利用に限定されていたが、今後は振替乗車の対象となる乗車券の区間内であれば任意に選択できるようになり、振替乗車票の配布も省略される。



なお、現在は「改札入場後のICカード」も振替輸送の対象だが、煩雑な手続きを要しているため、今後は対象外となる。IC定期券は引き続き対象となる。例外など詳しくは利用する鉄道にて確認を。

## JR以外の電鉄でもICOCAを発売

**阪**急電鉄、阪神電車、能勢電鉄、北大阪急行電鉄の各社におけるICOCAとICOCA定期券の発売が3月1日に開始する。各鉄道利用の利便性向上とICカードのさらなる利用促進を目指し、4社とJR西日本が昨年合意。スルッとKANSAI協議会とJR西日本が合意した「ICカード乗車券を活用した連携サービス」に基づくものとしてスタートした。



各種カードは、阪急電車・阪神電車・北大阪急行電鉄各駅に設置している券売機や定期券発売所などで購入できる。新規購入時にはデポジット500円が必要で、使用中の磁気定期券をICOCA定期券に変更することも可能。詳しくは利用する鉄道にて確認を。

## スマートフォンにもセキュリティが大切

協力:大阪府警察

インターネットは日常生活に欠かせない存在となり、またスマートフォンを手放せないという人も多いのでは。いつも使っているスマートフォンには、電話帳から写真まで様々なデータ保存されており、犯罪者はあらゆる手段を使い、それらの情報を盗もうと試みてくる。大切な情報を守るため、スマートフォンにもセキュリティ対策が必要となる。

スマートフォンのソフトウェアやアプリは、欠点や不具合が発見されれば、修正プログラムが提供されるので、すぐにアップデートして常に最新の状態を保つことが大切だ。

昨年はSMS（電話番号を使ったメール）で不正アプリをダウンロードさせ、電話帳の登録者に迷惑メールを拡散させるといった事例が多発した。不審なメールのリンクはクリックせず、便利アプリと見せかけて不正アプリをダウンロードさせられるということもあるので、ウイルス対策ソフトでブロックする等、スマートフォンのセキュリティを高めよう。

### スマートフォンのセキュリティ対策

1. 端末のOSとアプリは最新にアップデートすること
2. アプリのダウンロード、権限（電話番号の共有等）の承認は慎重に
3. ウイルス対策ソフトを導入しよう
4. セキュリティが確保されていない無線Wi-Fiには接続しない
5. ログインのIDやパスワードは同じものを使い回さない



2月1日～3月18日は、  
サイバーセキュリティ月間

サイバーセキュリティに関心を持ち、サイバー犯罪に巻き込まれないようにしましょう。